

諏訪木遺跡出土土偶形容器速報展



会期：平成26年9月29日（月）～平成27年3月31日（火）

会場：熊谷市立江南文化財センター展示室

1 はじめに

熊谷市教育委員会では、平成26年7月から8月にかけて、市内上之地区内に所在する諏訪木遺跡において、個人専用住宅建設に伴い記録保存のための発掘調査を実施しました。

その際に、弥生時代中期後半（今から約2,000年前）と考えられる竪穴住居跡から、土偶形容器がほぼ完全な形で出土しました。この土偶形容器は、仰向けの状態で出土し、その上には弥生土器壺が覆いかぶさっていました。

土偶形容器は、隣接する、弥生時代中期～後期の関東屈指の大規模集落が確認されている前中西遺跡においても、本遺跡と同時期のものが出土していますが、いずれも破片及び欠損しているものです。

近県においては、完全またはほぼ完全な形の土偶形容器の出土が見られますが、埼玉県においては、初めての出土と考えられます。

そのため、江南文化財センターでは、この土偶形容器をいち早く皆様に見ていただきたく、速報展を企画いたしました。

2 諏訪木遺跡と発掘調査の成果について

諏訪木遺跡は、市東部の妻沼低地の自然堤防上を中心に広がる、縄文時代後期から江戸時代に至るまでの複合遺跡です。本遺跡を最も特徴付けるものは、古墳時代後期から平安時代にかけて（今から約1,400年前～1,000年前）にかけて行われた河川祭祀跡や、平安時代（今から約1,200年前～1,000年前）の官衙（役所等）的集落跡の発見です。

この度の調査では、縄文時代後・晩期の遺物包含層、弥生時代中期の竪穴住居跡、古墳時代後期の竪穴住居跡、古代と考えられる掘建柱建物跡、中世の井戸跡などが発見されました。

本遺跡においては、弥生時代の具体的な生活痕跡がまだまだ明確に分かっていませんので、土偶形容器が出土した弥生時代中期の竪穴住居跡は貴重な発見でした。



諏訪木遺跡位置図

